

# 和の光

宝塚市立西谷中学校



## 行為の意味

宮澤 章二

—あなたの<こころ>はどんな形ですか  
と ひとに聞かれても答えようがない  
自分にも他人にも<こころ>はみえない  
けれど ほんとうに見えないのであろうか

確かに<こころ>はだれにも見えない  
けれど<こころづかい>は見えるのだ  
それは 人に対する積極的な行為だから

同じように胸の中の<思い>は見えない  
けれど<思いやり>はだれにでも見える  
それも人に対する積極的な行為なのだから

あたたかい心が あたたかい行為になり  
やさしい思いが やさしい行為になるとき  
<心>も<思い>も 初めて美しく生きる  
—それは 人が人として生きることだ

「こころ」は誰にも見えないけれど「こころづかい」は見える。「思い」は見えないけれど「思いやり」は誰にでも見える。

2011年3月11日に発生した東日本大震災で、大きな衝撃と悲しみに覆われていた時、テレビのCMで繰り返し流れた映像とこの一片の詩。私たちに「こころづかい」や「おもいやり」の大切さを教えてくれました。それは宮澤章二さんの「行為の意味」という詩でした。

大切なものは目に見えないのです。星の王子様の本の中にも「こころで見なくてはよく見えない。いちばんたいせつなことは、目に見えない」と書かれています。

あの震災の中で、「目に見えないものを大切にしよう」と、人として一番大切なメッセージが日本中に流されたのです。

親は自分にとって偉大な存在であったのに、いつしか背丈も追い越している。親が小さく感じることもある思春期の子どもたち。

それなのに、ついつい反抗してしまう。

そんな自分のことが嫌になってしまう思春期の子どもたち。

優しくしようと思っても、口から出る言葉は優しさのない言葉。そんな自分に嫌気がさす思春期の子どもたち。

宮澤さんの詩は、自分と葛藤しながら生きている思春期の子どもたちに、優しく、具体的にメッセージを伝えています。

見えないところが見える行為を生み出していきます。それは、池に小石を投げる行為と似ています。投げられた小石は池の中に沈んでいき、最後は見えなくなりますが、投げ続けて行くといつか水面に出てきます。

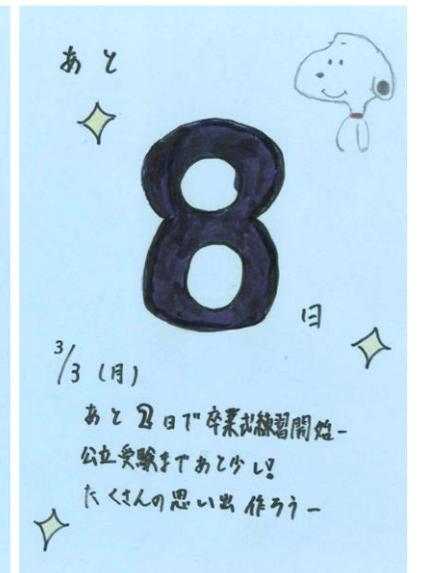
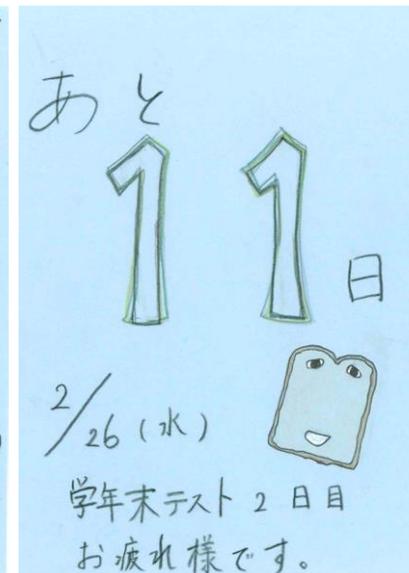
その時、自分がどんな石を投げていたのかが分かるのです。見えない心ころも同じで、いつしか見える行為に変わっていくのです。

教育現場において、見えないところである根を育てていくことを疎かにしてはなりません。目に見える学力だけでは樹は育たないのです。

校長 筒井 啓介

## ■卒業式が近づいてきましたII

ついに3月になりました。3年生は西谷中に通う日もあと2週間になりました。普段当たり前に受けた授業、仲間と語りあった休み時間や放課後、仲間と共に食べた給食、どれもあと数日で最後になります。卒業までの日々の授業、仲間と過ごす学校生活を大切にしながら過ごして欲しいと思います。(3月3日)



日めくりカレンダー (3年生の作品)

■仲間と共に学ぶ楽しさ～技術科授業の様子（1年生）～

1年生技術の授業を見学しました。教室では、木材にさしがねで線を引いたり、やすりをかけたりと、各自が熱心に作業に取り組んでいました。木材やプラスチック、金属の材料を組み合わせたペン立てを作るそうです。それぞれの材料の特徴や加工の仕方を学び、その知識をいかして加工することで、学んだことが一層定着することを願っています。（2月5日）



さしがねで線を引きます



やすりで「ほぞ」を加工します



角のみ盤を使って「ほぞ穴」をあけます



アクリル板をヒーターで加工します



けがいた線の点検を受けます